

[成果情報名] 「ソーラーローズシステム」におけるバラの台刈り更新による連続栽培法
[要約] バラの低コスト・省力生産技術「ソーラーローズシステム」では、台刈りすることによって連続栽培することができ、3月台刈りでは切り花本数が多くなる。
[キーワード] バラ、ソーラーローズシステム、低コスト、省力、台刈り更新
[担当] 総合農林試験場・野菜花き部・花き科
[連絡先] 電話 0957-26-3330、電子メール arakabu@pref.nagasaki.lg.jp
[区分] 花き
[分類] 指導

[背景・ねらい]

「ソーラーローズシステム」は、広幅ベッドに2条植えし、光合成専用枝をベッドの内側に折り倒してラックをつくり、折り倒した部分から発生したミドルシュートを収穫する低コスト・省力栽培技術である。

バラは、株の老化により生産性が低下する定植後5年を目処に改植を行う。この改植作業には多くの労力と種苗費を要する。そこで、同一品種を改植することなく生産性を回復する方法として、台刈りによる連続栽培技術を開発することとし、台刈り更新時期とその後の生産性を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．切り花開始時期は、3月台刈り更新では8月、5月台刈り更新では9月、3月改植では10月となり、改植よりも台刈り更新することにより収穫開始時期は早くなる（図1、図2、図3）。
- 2．切り花収量は3月台刈り区が多くなり、ステムの長い切り花本数も増加する（表1）。
- 3．台刈りは、改植作業を行うことなく同一品種を連続栽培することができ、低コスト・省力栽培ができる。

[成果の活用面・留意点]

- 1．台刈りは、株元の芽の位置に関わらず、株元をのこぎりやはさみで切り取る。
- 2．台刈り前後は、通常どおり灌水する。
- 3．萌芽後は早めに1株当たり4本程度に芽整理を行い、ソフトピンチを繰り返しながら仕立てる。以降は、定植当年同様に仕立て、光合成専用枝を折り倒し、ラックをつくる。

[具体的データ]

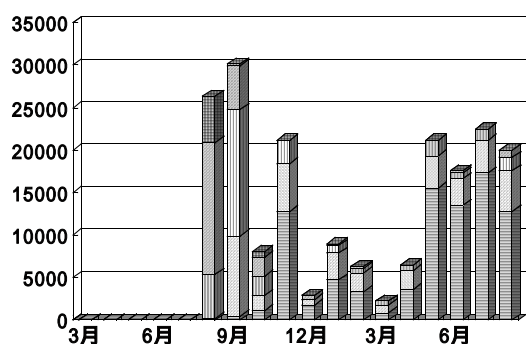


図1 3月台刈りにおける月別切り花
切り花本数（本 / 10a）

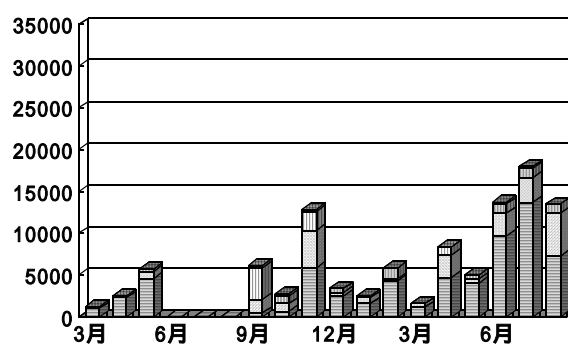


図2 5月台刈りにおける月別切り花
本数（本 / 10a）

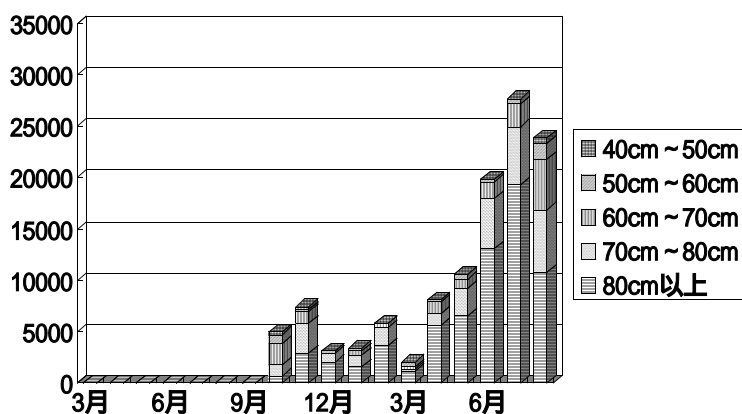


図3 3月改植における月別切り花本数
（本 / 10a）

表1 「ローテローゼ」の10a当たり階級別切り花本数

試験区	80cm以上	70～80cm	60～70cm	50～60cm	40～50cm	計
3月台刈り	87960本	41850本	32850本	24990本	6300本	193950本
5月台刈り	63645	23977	14527	2250	0	104399
3月改植	67290	28590	15090	5400	900	117225

注1) 台刈り・改植時期

3月台刈り 2002年3月22日

5月台刈り 2002年5月20日

3月改植 2002年3月22日

注2) 調査期間 2002年3月～2003年8月

[その他]

研究課題名：施設花きの低コスト・省力生産技術確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2005年度

研究担当者：出口 浩、松尾崇宏